

UD視点 6 板書、ノートやファイル

授業の流れや内容の理解を図り、児童生徒の思考活動を助けるためのツールの一つが、板書です。わかりやすい授業づくりのためには、板書を構造化するなどの工夫が求められます。

また、児童生徒は、板書をノートに取りながら、自分や友だちの考えを明確に捉えたり修正したりして授業の理解を深めようとしています。学習の定着を図るために、教科ごとのノート（学習で使うプリントやワークシートを含む）やファイルについて指導することが大切です。

児童生徒の困っている状況 UDの視点による支援や配慮のポイント

① 授業の流れや内容がわかるように板書の構成を工夫している。

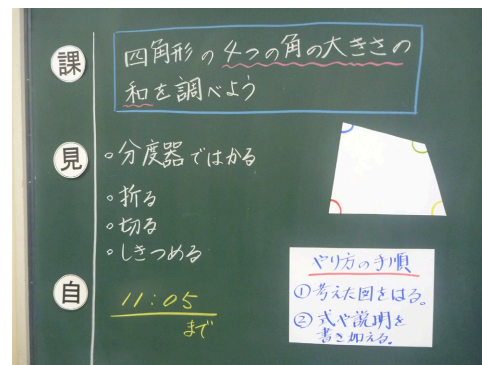
ノートがしっかり取られていない、板書した内容を理解していない

本時の指導で、何をどれくらい板書に盛り込むのか、事前に計画する必要があります。その上で、実際の授業での児童生徒の発言などを活かし、状況に合わせた板書構成にしていけることが大切です。

板書内容を精選し、児童生徒にとってのわかりやすさや、ノートへの取りやすさを工夫することで、より確かな学習の定着が期待できます。

<板書の構成の仕方 例>

- 黒板のどこに、どんな内容を配置するか決める。
- 黒板を分割してノート1ページ分と対応させるなど、ノートに取りやすい板書にする。
- 導入、展開、まとめなどの授業の流れに沿って、学習内容の要点を板書する。
- 箇条書き、キーワード、キーセンテンスなどで、短くまとめて板書する。



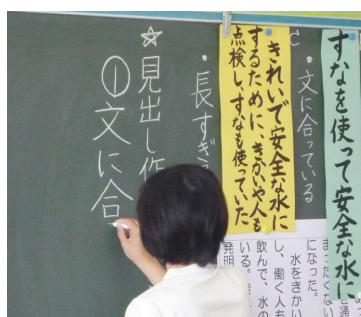
算数の板書(小学校)

② 教室の後ろの児童生徒からも見えるような文字の大きさ、行間にしている。

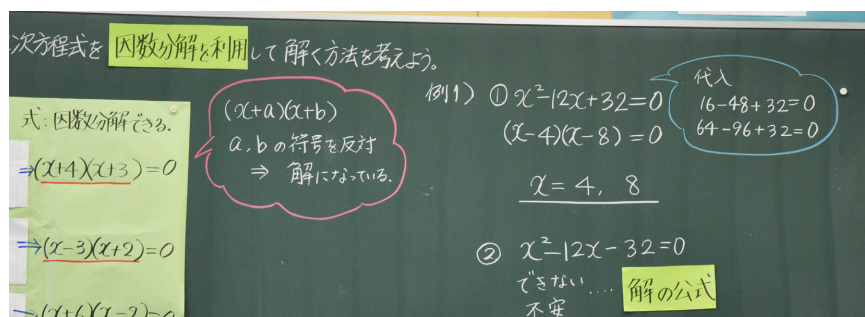
板書の文字を読みにくそうにしている、ノートがしっかり取られていない

すべての児童生徒の座席から黒板までの距離や、座席から見える角度や光の反射などによる見えにくさについて配慮する必要があります。

適度な文字の大きさや行間の幅などを意識した板書を心がけることで、改善を図ることができます。



国語(小学校)



数学(中学校)

③ 大事なところがわかるように工夫して示している。 (チョークの色、ラインや囲み、矢印や記号、掲示物の活用など)



板書の注目すべき箇所に視線が向けられていない、本時の学習内容を理解して取り組めていない



板書の中で、特に注目させたい箇所を児童生徒に印象づけるために、様々な強調の工夫をしてみましょう。

色の見え方には個人差があり、色覚に不安を持つ児童生徒がいる場合もあります。色の判別を要する表示や掲示物を提示する際には、誰もが識別しやすい配色で構成することが大切です。

<チョークや掲示物の活用 例>

■文字の表記には、主に、白と黄のチョークを使う。

■白と黄以外のチョークは、主に、ラインや囲み、矢印、色取りなどに使う。文字の表記に使用する場合には、太く大きくはっきり書くようにする。あまり様々な色を使いすぎない。

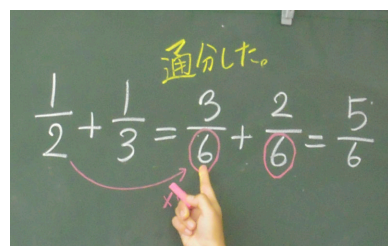
■チョークの用途を決める。

- ・黄チョーク→キーワード
- ・赤チョーク→ラインや囲み
- ・ライン→キーセンテンス
- ・囲み→課題やまとめの文章

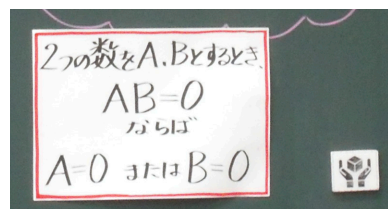
■端的な強調の工夫をする。

- ・矢印→関連づけ
- ・記号→◎(成果)、△(課題)

■移動や貼り替えが可能なカード、マグネットシート、模造紙などを利用する。



算数(小学校)



数学(中学校)

④ ノートに取りやすい板書の仕方を工夫している。(スピード、タイミング、間など)



ノートがしっかり取られていない、書くことに集中していて話を聞いていない、挙手が少ない



配慮を要する児童生徒には、教師が話をしながら板書をする、教師の話を聞くことと、板書をノートに取ることのどちらを行えばよいのかが判断できなくなる場合があります。

発達段階に応じて、教師が板書するスピード、タイミング、間などを工夫することで、児童生徒がノートを取りやすいリズムをつくれます。また、書くことに余裕ができれば、聞くこと、考えること、発言することなどの活動を保障することにもつながります。

学級全体にとっても、学習活動にめりはりをつけ、より積極的に学ぼうが期待できます。



⑤ ノートの取り方やファイルの整理の仕方を指導している。



ノートを取る習慣が身につかない、
ファイルにプリントが整理されていない、
その後の学習に十分に活かされていない



配慮を要する児童生徒は、ただノートに取ることで精一杯だったり、取れば学習ができたという錯覚したりしている場合があります。

発達段階に応じて、板書の内容と一致した、わかりやすいノートの取り方ができるように指導することが大切です。

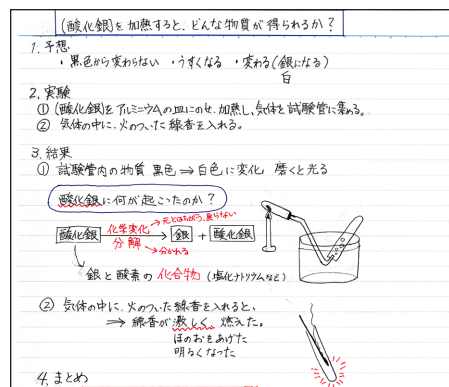
また、ノートやファイルの持つ4つの機能(練習・備忘・整理保存・思考や探究)を意識させ、目的に応じたノートやファイルになるように、以下のような指導で、繰り返し定着を図りましょう。

<ノートやファイルの指導 例>

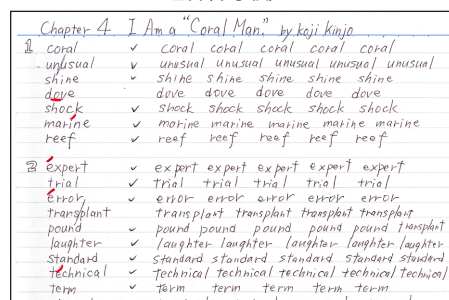
■学年や教科に応じたノートやファイル、筆記用具の選び方

■見本となる児童生徒のノートやファイルの紹介

■定期的なノートやファイルの点検



理科(中学校)



英語(高等学校)